



菊地 匡（きくち ただし）

河北町名誉町民 昭和 63 年 10 月 11 日顕彰

明治 41 年（1908）、溝延村（現河北町溝延）に生まれました。昭和 9 年（1934）日本医科大学を卒業し、同 12 年から軍医として従軍しました。同 19 年からは溝延で医院を再開し、地域医療に尽くしました。

昭和 30 年（1955）4 月、河北町議会議員に初当選を果たし、新しく成立した河北町の大きな目的の一つであった財政の効率化について誠心誠意力説してきました。地域格差の是正、地域住民の所得向上、生活文化及び文化水準の向上、更に急激な社会情勢の変化に応ずるために社会教育の果す役割が大きいと認識し、その整備の実現に大きく貢献しました。

12 年間の副議長を経て町議長に推挙されました。議会からの信頼を受け良き指導者として円滑な運営、基礎の確立につとめ地方自治振興・発展に努めました。

昭和 49 年（1974）10 月、河北町長に立候補、当選を果たしました。氏は地方自治の発展、地域社会の福祉向上に貢献され、氏が在職中に取り組みされた主な事業は、農村総合整備モデル事業、県立河北病院新築移転事業など、更に公共下水道事業に意を注ぎ、計画的整備を図ります。教育関係では 4 つの中学校の統合を図りました。病の為やむなく町長 2 期目の立候補を断念したものの、病の回復後、社会福祉法人河北福祉会を設立し、その理事長に就任、特別養護老人ホーム「眺葉園」の管理運営にあたられ、福祉の向上に奔走します。

氏は至誠一路、その半生をかけて河北町発展、住民福祉の向上に尽くしました。